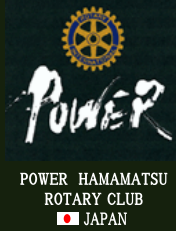


国際0-列-第2620地区
静岡第5グループ



週報 パワー浜松ロータリークラブ

小さな歯車 地球を回す

RI 会長 ゴードン R. マッキナリー / 第 2620 地区ガバナー 中村皇積 / 会長 伊藤勝人 / 幹事 土屋公良
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松内 Tel:053-452-0800
Email:info@power-hamamatsurc.jp http://www.power-hamamatsurc.jp
創立：2002年10月22日 認証伝達式：2003年4月29日 スポンサークラブ：浜松中RC



第943回例会7月11日(火)AM7:30~8:30

- 会場：オークラクトシティホテル浜松 3階 チェルシーの間
- 司会：高部光司 谷川修一 ■点鐘：伊藤勝人 ■週報：鈴木亮
- ロータリーソング：「それでこそロータリー」
- ゲスト：静岡ブルーレヴズ(株) 代表取締役社長 山谷拓志 様
同 営業担当 吉田有毅 様
米山記念奨学生 ヤオ ファンボさん

出席報告/スマイル報告

会員数 67 名 (内出席免除会員 1 名)
出席数 51 名 出席率 77.27%

スマイル提出者氏名掲載
伊藤勝人会長・土屋公良幹事
堀内善弘会員

会長挨拶

おはようございます。7月といえば、京都では祇園祭です。私も仕事柄、お客様をお連れして出かけることがあります。日本三大祭りのひとつ、祇園祭は、7月1日から1ヶ月にわたる八坂神社のお祭りで、平安時代前期 863年に京で疫病が流行した際、疫神(えきじん)や死者の怨霊を鎮めるために行った御霊会(ごりょうえ)が始まりとされています。

1200年近い歴史を持つ京都の夏の風物詩で、「前祭り」と「後祭り」に分かれており、八坂神社から神様の乗った神輿(みこし)を御旅所(おたびしょ)へお迎えする「前祭」が7月17日、八坂神社に神輿を返す「後祭」は7月24日に行われます。

また、京都では、前夜祭のことを、「宵山(よいやま)」と言います。前祭の宵山は7月14日~16日、後祭の宵山は7月21日~23日のどちらも3日間で行われ、宵々山、宵々山、宵山、には、旧家や老舗の家先に、伝来の屏風などの宝物を飾り、一般の人たちに披露が行われるため、宵山祭りは別名「屏風祭り」とも言われています。

そして、「前祭」「後祭」で神輿が出る前に、町の邪気や穢れを清め、神様の通る道を作るのが「山鉾の巡行」です。前祭の17日は23基、後祭の24日には11基の山鉾引き回しがあり、大変有名です。

山鉾の巡行の中でも特に見どころの一つになっているのが、大通りを90度に方向転換するときです。細い青竹を車輪の下に敷き詰め、慣れた手つきで素早く方向を変えさせるのです。また、山鉾巡行でも、様々な美術工芸品、中国やペルシャ、ベルギーなどの装飾用の織物が飾られます。その中には、将軍が他国から献上された品で、借入金代わりに豪商が賜ったものもあるそうです。

重要有形民俗文化財の山鉾が公道を巡るため「動く美術館」とも例えられています。機会があれば、ぜひ行ってみてください。とても見る価値があると思います。

さて、今日は、静岡ブルーレヴズ株式会社の代表取締役社長、山谷拓志(やまやたかし)様をお迎えしております。山谷様、本日はお忙しい中、早朝よりお越しいただきありがとうございます。ラグビーと言えば、4年前のワールドカップで、並みいる強豪を打ち破った、あの日本チームの活躍が思い出されます。今日の卓話を楽しみにしております。山谷様、宜しく願いいたします。

幹事報告

- ① 会費について 7月~9月の会費を7/25に引落とします。
- ② 第2620地区のホームページが新しくなりました。「ロータリーの友」電子版のパスワードが変更しました。

委員会報告

- 米山記念部会 諸星圭吾部会長 地区米山記念セミナー開催の案内
- ゴルフ同好会 華岡博之会長 第1回青空例会の案内

■静岡ブルーレヴズ株式会社 代表取締役社長 山谷拓志（やまや たかし）様
プロスポーツによる地域創生 ～日本初プロラグビークラブ“静岡ブルーレヴズ”の挑戦～

2019年に日本で開催されたラグビーワールドカップにおいて、当時「静岡ショック」と言われたアイルランド戦の勝利があったわけですが、ブルーレヴズは「これを日常にしたい」というコンセプトで作られました。私は元々はヤマハ（ジュビロ）で40年以上活動していましたが、これを機に地域・オール静岡に根付いたプロラグビーチームが日本で初めて実現しました。

ヤマ発と鈴与が同じユニフォームに載っているということは、サッカーではジュビロとエスパルスが一緒になっているという事で、とてもあり得ないことですが、静岡県全域の企業様に応援頂いております。

しかし、レヴズとは“エンジンを駆動する”という意味ではヤマハ発動機の伝統を継いでいます。「日本一の山」である富士山を持つ県のチームは、やはり日本一を目指さなければいけないと思います。10年後に世界一という目標を掲げてます。50億円の売り上げで世界一のチームになれます。10年かけてこの浜松にナンバーワンの売り上げ高を誇る、世界一のチームを作っていきたい。

本題 1.スポーツによる地域活性化

“する”スポーツではなく“見る”スポーツを提唱したい。

ジュビロ磐田、WBC、サッカーワールドカップを見て興奮した方はたくさんいらっしゃると思います。

他のエンターテインメントとの違いは「筋書きが無い」ということです。

これが見る価値を高めております。

するスポーツによる街づくりの代表は静岡国体です。

これによりスポーツを“する”ためのインフラ整備が行われてきました。

健康づくりのため、予防医学の観点からスポーツをしましょうという機運が高まり、その最たるものがマラソン大会です。

これは“する”スポーツによる街づくりの典型的なイベントです。

1万人以上の方がこの街に来て宿泊して飲んで食べて帰る。

経済効果としても高いので、全国どこでもマラソン大会が行われています。

地域に“見る”スポーツがあることの効果

①経済効果 ②知名度アップ ③地域の連帯感が生まれる ④応援しているチームが勝てば元気をもらえる。

⑤競技のトッププロが地元にあることが子どもたちに大きな影響を与える。

プロスポーツチームというのはそういった意味で社会の公共財と思って頂きたいです。

浜松はスポーツ施設という面では遅れているが、逆に言えばチャンスです。

素晴らしい施設が出来る可能性があるということです。

世界的に80万人都市でプロスポーツチームが無くて4~5万人規模のスタジアムが無いのは逆に珍しい街です。

日本ではこれからもの凄いスポーツ施設が北海道、神戸、佐賀、長崎はじめ全国にたくさん出来ます。

ポイントは競技の場ではないということです。

今は施設の面から言いますと、“見る”という観点から作られている施設が増えていきます。

浜松にも“見る”という観点から徹底的に考えた施設が必要だと思っています。

“見る”専用のスタジアムにするには多目的にしなければならない。

世界にはモトクロスの出来るスタジアム、音楽ステージのあるスタジアムがあります。

まさにそれは浜松らしいスタジアムの理想です。

音楽の街浜松、バイクの街浜松を象徴して、あとはウナギと餃子が集結して、勝手に名付けましたが

「やрмаいかスタジアム」を建設する大チャンスです。

浜松の野球場の建設についてですが、浜松に年間何十試合もするチームが無い以上、野球場と名乗るのではなく多目的ドーム型スタジアムとしていかななくてはならない。

アメリカの野球・フットボール併用型のスタジアムや北海道エスコンフィールドの設計者は神谷さんという浜松出身の方です。

世界中のドーム型スタジアムの設計の第一人者です。こういった方が浜松にいらっしゃるのであればお任せして多目的ドーム型スタジアムを作ってもらいましょう。

スタジアムを中心とした街づくりも考えないといけません。すべてを一体としていくことで莫大な経済効果を生むことになると思います。最後に重複しますが、浜松を拠点としたプロスポーツチームとして日本一となり、皆さんと優勝を分かち合う、というのが私の目標です。本日はありがとうございました。

